



University of Tsukuba Library

Annual Report

2023



筑波大学附属図書館
年報2023
年度

目次 Contents

1. 館長挨拶	1
2. トレンド	2
IIF対応デジタルアーカイブと知識基盤	
3. フォーカス (2023年度の特徴的な活動・事業)	4
1) 図書館システムの更新	
2) 筑波大学デジタルコレクションの構築	
3) 2023年度企画展「古典籍のインターフェース」開催・常設展リニューアル	
4) 相互利用の窓口での支払いにキャッシュレス決済導入	
5) 図書館情報学図書館の貴重書保存環境の整備	
6) LA企画セミナーを4年ぶりに対面形式で開催	
7) 「令和7年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」決定	
4. 職員の活動	12
1) 国際シンポジウム「大学における研究データ管理の意義と支援人材育成」への参加	
2) JADH2023ワークショップへの参加	
3) 2023年度大学図書館職員短期研修への参加	
4) 令和5年度図書館等職員著作権実務講習会への参加	
5) 令和5年度障害者サービス担当職員向け講座への参加	
6) 執筆活動	
7) 研修における講師等	
8) 職員研修会	
5. トピックス	16
1) サービス・活動	
2) イベント・セミナー・授業	
3) 展示	
4) 見学・来訪者	
5) オリエンテーション・講習会	
6) 研修・シンポジウム	
7) 会議	
8) 研究開発室	
6. メディアに見る附属図書館	20
1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事	
2) 筑波大学附属図書館の刊行物	
3) 筑波大学出版会の刊行物	
4) 出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料	
7. 附属図書館ボランティアの活動	22
8. 組織図・歴代図書館長	23
9. 統計	24

表紙写真

上：秋の中央図書館（企画展の垂れ幕とともに）
下：久々の開催となった、附属図書館ボランティアによる「おりがみ講習会」

裏表紙写真

上：春日キャンパスの桜並木
下左：大塚図書館 入退館ゲートと点字マット
下右上：体芸図書館 大閲覧室
下右下：医学図書館 集密書架

※本冊子に記載の所属・役職は全て2024年3月31日現在のものです。



副学長(企画評価・広報担当)・附属図書館長

西尾 チヅル

平素より、当館の運営に深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。「筑波大学附属図書館年報 2023」を発行いたしましたのでご覧ください。

2023 年 5 月には、社会活動に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に変更されました。本学の活動形態も 5 月 8 日から通常どおりになり、附属図書館もほぼ通常のサービスを提供できるようになりました。また、2024 年 3 月には図書館システムの更新を行い、電子リソースの検索・利用環境を向上させました。この一年間の活動を振り返り、ご紹介いたします。

2023 年 5 月以降は、館内の利用制限をほぼなくし、対面でのセミナーやイベントを開催しやすくなりました。10 月から 11 月には、本学教員が講師を務め、大学での学びに必要なスキルをテーマ毎に取り上げるライティング支援連続セミナーを、昨年度に続いて対面で開催しました。なお、今年度はライティング支援セミナーの一部を録画し、オンデマンドで配信する取り組みも行っています。さらに、大学院生のラーニング・アドバイザーが企画・実施する LA セミナーを 4 年ぶりに対面で開催し、30 名の学生に参加いただきました。

対面での様々な活動を再開した一方で、オンラインを活用したサービスの提供も続いています。新入生を対象とするファーストイヤーセミナーをはじめ、当館が実施するデータベース講習会の多くはオンラインで開催しており、一部のものは動画も提供しています。大学図書館職員の研修会である「大学図書館等職員長期研修」も昨年度に引き続いてオンラインで開催し、全国から 30 名の受講者を迎えることができました。また、これまで障害のある学生を対象としていた資料電子化サービスについて、障害のある大学教員もサービスの対象に加えました。学習や研究に必要なオンラインサービスについては、今後も継続して対応したいと考えています。

地域・社会貢献の一環としての所蔵資料の展示や、生涯学習の機

会の提供も引き続き行っています。10 月 23 日から 11 月 10 日まで、附属図書館企画展「古典籍のインターフェース」を開催しました。本学は 2023 年に創基 151 年、筑波大学開学 50 周年を迎えましたが、この企画展はその一環として、新たなスタートを切る重要な 1 年の幕開けと位置づけて開催したものです。昨年度の特別展では学外の方には事前の予約をお願いしていましたが、今年度は入館の制限をなくし、会期中には学外の方にも多くご来場いただきました。なお、本展の会期終了後、出展された資料を基に常設展示をリニューアルしています。

附属図書館ボランティアの活動も 4 月から全面的に再開しました。対面での活動のため休止していたボランティアカウンターでの総合案内のほか、日本文化紹介のイベントであるおりがみ講習会も再開し、留学生、日本人学生、ボランティアによる、おりがみを通じた国際交流を行うことができました。

今年度の新たな取り組みとして、筑波大学デジタルコレクションの公開が挙げられます。これまで図書館の蔵書検索システム（OPAC）内で公開していた貴重資料等の電子化画像を、デジタルコレクションという新たなサービスとして提供するものです。このシステムは国際的に広く利用されている画像共有の枠組みである IIIF に対応しており、画像やメタデータの多様な利活用が可能になりました。

また、利用者の利便性を高め、利用者・職員双方の負担を軽減することを目指して、相互利用サービス利用の支払いにキャッシュレス決済を導入しました。2023 年 5 月から文献複写・相互貸借等の支払いにクレジットカードや電子マネーを利用できるようにしたことで、窓口での支払いがスムーズになりました。

今後も附属図書館の存在が皆様の教育や研究の一助となりますよう、一層の努力を重ねてまいります。引き続き、附属図書館の活動へのご理解とご支援の程をよろしくお願い申し上げます。

(2024 年 3 月 31 日)

2 トレンド

IIIF 対応デジタルアーカイブと知識基盤

2024 年 3 月の筑波大学附属図書館システムの更新に伴い、IIIF（トリプルアイエフ）に対応したデジタルアーカイブシステム（以下「筑波大学デジタルコレクション」）が導入されました。現在、本学を始め世界中の様々な図書館・博物館・美術館等でデジタルアーカイブの IIIF 対応が進められています。ここでは、IIIF とはどんなものかということと、それを通じてどんなことが可能になってくるかということについて、デジタルヒューマニティーズ（あるいは人文情報学、以下「DH」）の文脈から述べたいと思います。

1. IIIF について

IIIF（International Image Interoperability Framework）とは、その名の通り、画像を相互にやりとりするための国際的な枠組みのことで、インターネットを通じて画像等のデジタルメディアのやりとりを共通化された方法で行うための、様々な仕様の検討が行われています。具体的な成果としては、いくつかの API（Application Programming Interface）が提案されていますが、ここでは特にそのうちのふたつ、画像 API とプレゼンテーション API について簡単に紹介したいと思います。

IIIF 画像 API

IIIF 画像 API では、ウェブの URI を通じて画像を提供するための仕様が定義されています。具体的には次のような形式の URI で画像をリクエストできます。この URI では実際に IIIF 画像 API に対応した画像サーバが稼働しており、下のような画像を取得することができます。

https://dc.tulips.tsukuba.ac.jp/image/iiif/3/pub_10076924_10076924740_ptif_10076924740_1.tif/full/1000,/15/gray.jpg



上記の URI のうち、末尾の "full/1000,/15/gray.jpg" の部分が、出力画像のフォーマットを指定するパラメータになっています。この場合、元画像のすべての領域を、横幅 1000 ピクセルに縮小し、15 度回転し、グレースケールの jpg ファイルとして取得せよ、という意味になります。

IIIF 画像 API を使うと、切り抜きや拡大縮小、色数やファイル形式の変換をすべてサーバ側で実行できるため、ユーザは例えばサムネイル画像を別途手元で作成するなどの手間が不要になります。また、大きな画像から一部分だけを切り抜いた画像を取得することも自由自在です。もちろんこうした機能をクライアントアプリケーションの機能として実装することも可能です。

IIIF プレゼンテーション API

IIIF プレゼンテーション API では、デジタル画像等を含む資料の各種情報を記述し、それをウェブを通じて共有するための仕様が定義されています。IIIF プレゼンテーション API の仕様に準拠して記述された資料情報ファイルを「マニフェスト」と呼びます（データの形式は JSON-LD）。以下は筑波大学デジタルコレクションが提供している「三体詩素隠抄」のマニフェストの一部です。

```
{
  "@context": "http://iiif.io/api/presentation/2/context.json",
  "@id": "https://dc.tulips.tsukuba.ac.jp/iiif/2/889427/manifest",
  "@type": "sc:Manifest",
  "label": "[三体詩素隠抄] 13巻（存6巻）, 1",
  "metadata": [
    {
      "label": "タイトル/Title",
      "value": "[三体詩素隠抄] 13巻（存6巻）, 1"
    },
    {
      "label": "タイトルの読み/Title Transcription",
      "value": "サンタイシ ソイン ショウ 13カン（ソシ6カン）"
    },
    {
      "label": "巻次/Volume",
      "value": "1"
    },
    {
      "label": "著者/Author",
      "value": "素隠略取"
    },
    {
      "label": "出版地/Publication Place",
      "value": "[京]"
    },
    {
      "label": "出版者/Publisher",
      "value": "木室二兵衛"
    },
    {
      "label": "出版年月等/Published Date",
      "value": "寛永3 [1626]"
    },
    {
      "label": "出版年（西暦）/Publication Year (Christian era)",
      "value": "1626"
    }
  ]
}
```

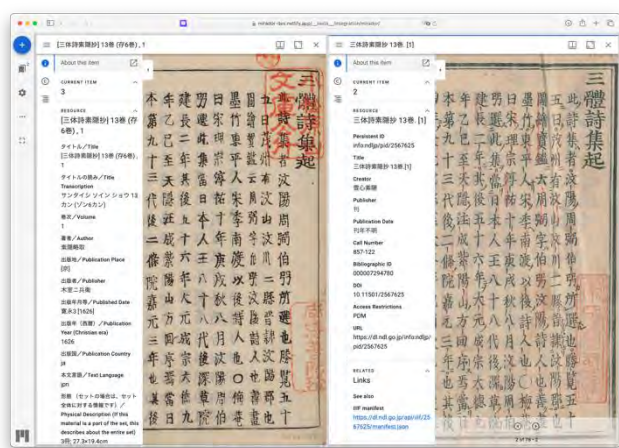
ここに見えているのは一部のメタデータのみですが、このあとに、資料中に含まれる複数ページの画像についての情報などが続きます。このようなデータが、

<https://dc.tulips.tsukuba.ac.jp/iiif/2/889427/manifest>

のような URI で公開されています。IIIF プレゼンテーション API の強力な点は、このマニフェストを非常にフレキシブルに扱えることにあります。例えば、筑波大学デジタルコレクションで提供している上記マニフェストと、国立国会図書館デジタルコレクションが提供している「三体詩素隠抄」のマニフェスト

<https://dl.ndl.go.jp/api/iiif/2567625/manifest.json>

を、ひとつのビューアで同時に参照し、以下のように両方の資料を並べて表示することが可能です。



このようにして、地理的に離れた場所に存在する様々な写本の異同を視覚的に確認することも、インターネットを通じて手軽にできるようになります。

また、さらに強力な機能として、IIIF プレゼンテーション API にはアノテーション（注釈）機能に関する仕様も定義されています。これを使うと、デジタル画像中の特定領域に注釈テキストを結びつけることが可能になります。このことにより、テキストを使って画像の部分を検索することが可能になります。残念ながら筑波大学デジタルコレクションではアノテーションデータは付与されていませんが、今後アノテーションデータが付与され充実していくことによって、資料のメタデータのみならず、コンテンツの内容によってデータ連係が可能になっていくはずです。そのことも今後楽しみに期待したいと思います。なお、IIIF プレゼンテーション API の最新バージョン 3 では、画像に加えて音声や動画も扱うことが可能になりました。これはつまり、音声や動画にもアノテーションが付与できるようになったことを意味します。これによって IIIF プレゼンテーション API の利用可能性がさらに大きく広がったと言えるでしょう。

2. DH が目指すもの

ここからは、少し話を広げて、DH が目指すものについて述べたいと思います。DH は極めて間口の広い分野だと言えます。関連する研究分

野は、哲学・歴史学・考古学・文学・言語学といった人文系が中心になるのはもちろんですが、それ以外にも、芸術やスポーツなどもそのスコープに入り得ます。そうした事情もあって、DH は手法の標準化や知識の共有化ということに対して非常に強い関心を持っています。従来からのディシプリン型人文学が、特定の分野における深い知見を得ようとするものであるとすれば、DH は、それら個別の研究分野の壁を取り払い、互いに接続しようとするものだと言えるでしょう。上にあげた IIIF なども、活動の根本にはそうした動機ないし思想があると思います。DH という文脈の中で、仕様の標準化、標準に準拠したツールの作成と公開、資料・データ・知識・方法論の共有といったことが世界中で様々な試行されてきており、そうした活動を通じて、新たな研究分野の創出や、既存の研究成果に対する別分野からの新たな意味づけ、総合的な知識基盤の構築といったことが目標とされるようになっていきます。

3. 横断検索の広がり

現在では世界中に極めて数多くのデータベースが公開されており、その中には高い学術的な価値を持つものも多くあります。しかしながら、多くのデータベースが独立して存在している状況では、ユーザがそうした価値の高いデータにたどり着くのは困難です。先に述べた知識の接続という観点から見れば、横断検索システムが極めて重要な意味を持つことは言を俟ちません。実際に、ここ 15 年ほどの間に、ヨーロッパにおけるヨーロッパナ Europeana や日本におけるジャパンサーチ、さらにそれらをまとめて検索できるようなカルチュラルジャパンといったシステムが公開されてきました。これらのシステムの根幹においても、IIIF や RDF、TEI といった共通の技術が利用されています。こうした横断検索システムが充実することで、数が増えれば増えるほど情報にアクセスしにくくなるというジレンマに陥ることなく、共通化された方法によって世界各地に散らばる資料や資料情報にアクセスすることが容易になります。さらには、そのようにして収集した資料情報をもとに、独自の視点によるキュレーション（それは、大規模な研究から個人的な興味までカバーできるスケラビリティを持ちます）を行い、それをまた共通の手法で公開するといったことが可能になってきます。単に情報を収集し公開するだけでなく、その手法を共通化し、様々なシステムを互いに接続していくことで、新たなデータの活用法を開拓することが可能になるのです。

すでに述べたとおり、DH は極めて間口の広い分野です。その点で、総合的な知識の収蔵庫たる大学図書館が中心になってデジタルアーカイブ構築プロジェクトを進めていることの意義は極めて大きいと言えます。筑波大学デジタルコレクションの今後の発展に大いに期待したいと思います。

（人文社会系准教授 和氣 愛仁）

3 フォーカス (2023 年度の特徴的な活動・事業)

1. 図書館システムの更新

1. システム更新の概要

2024 年 3 月、図書館システムの更新を行いました。本学の図書館システムは、業務システムにとどまらず、ディスカバリサービスやリンクリゾルバ等の利用者向けの Web サービス、業務端末や利用者用端末も含むシステムです。

今回のシステム更新では、ポストコロナ時代を迎える中で、図書館サービスの利用環境の変化や、電子リソースの多様化及び増大化に対応し、より効率的・効果的なナビゲーション機能を利用者に提供することを目的としました。

2. 電子リソース発見環境の強化

今回の大きな変更点の一つは、電子リソース（電子ジャーナルや電子ブック）の検索機能を OPAC にも持たせたことです。リンクリゾルバのデータを活用することで、自動的に書誌がアップデートされる仕組みを構築し、状況の変化が激しい電子リソースのメンテナンス業務の負担を抑える形を実現しました。これにより、従来ディスカバリサービスのみで可能であった電子リソースと冊子体を横断して検索を行うことが、OPAC でも可能となりました。また、冊子体と電子版を相互にリンクし、例えば冊子体が貸出中であるなど、一方が利用不可の場合に別の選択肢を示すことができるようになりました。これらの機能によって、より統合的な利用環境を構築することができたとと言えます。

バックエンドでは、図書館システムパッケージ内で電子リソース管理機能が実現可能となったことから、別システムの電子リソース管理システムを削減することができました。

また、6 ページで取り上げているデジタルコレクションの構築も、このシステムの一部として行いました。



更新後の附属図書館ウェブサイトトップページ

3. 効率化と最適化

一方、今回の更新においては、為替の状況や人件費の上昇などの時勢により大学として予算が厳しい状況にあり、かつ本システムにおいても価格が大幅に上昇傾向であったため、コスト削減が必要とされました。

コロナ禍以降、図書館内の端末の利用は大幅に減少しておりましたが、2022 年度、2023 年度に至っても学生はノートパソコンを持参する形が定着しており、館内端末の利用は元のレベルまでは戻らないようであったことから、館内の利用者用端末を大幅に削減し、また、利用に比して管理システムのコストがかさんでいたプリンタサービスについては、すべての図書館に全学計算機とそのプリンタがあること、また有料での出力は可能であることから終了する決断をしました。

なお、並行して別途各図書館内に無線 LAN アクセスポイントを増設し、持ち込み PC による利用環境の改善を図っています。

ディスカバリサービス Tulips Search についても、Summon や同等サービスが改善されていることに鑑み、Summon にカーリル社製のインターフェースをかぶせた前回のサービス体制から、単独の体制に戻すことになりました。

4. サーバ環境

サーバ環境については、前回と同じく本学学術情報メディアセンターの提供する仮想基盤または外部クラウドを想定して調達しましたが、調達の結果仮想基盤を利用することになりました。

外部サービスに直接影響する部分ではありませんが、今回の更新にて、図書館員が構築し、図書館内に維持していた業務用サーバ群を同じ学内仮想基盤に移行しました。維持に必要な人的資源を図書館内部に確保し続けることが困難になってきていたため、これらのサーバによる業務効率は維持しつつも、安定的な体制に移行することで、懸念を減らすことができました。

今回の更新ではコストの効率化をはかりつつ、電子リソース発見環境の強化やデジタルコレクションといった新しい機能を実現しました。今後は、このシステムに対する利用者からの反応を調査し、引き続き改善を行っていきしたいと思います。

(デジタルライブラリ係長 関戸 麻衣)



OPAC の電子リソース表示の例～電子ブック検索結果一覧



利用条件詳細	
契約項目	許諾
承認ユーザー定義	別途、Springer Nature Customer Service Center GmbHと締結するSpringer Nature License Agreementによって規定された正規ユーザー*
サイトの定義	学術機関によるライセンス購読の場合、購読機関に所属する部署/施設（付属病院、研究施設、図書館分館など）であれば、無制限にそのIPアドレスをライセンスのアカウントに登録することが可能です（マルチサイト）。
同時アクセス数	無制限
ウォークインユーザー	Yes
ウォークインユーザー注記	「3-1 利用者の定義」で定めた正規ユーザー（Authorized User：認定利用者）としてライセンシー（購読機関）からアクセスが許可されている利用者であれば可能です。

OPAC の電子リソース表示の例～電子ジャーナル詳細画面

3 フォーカス (2023 年度の特徴的な活動・事業)

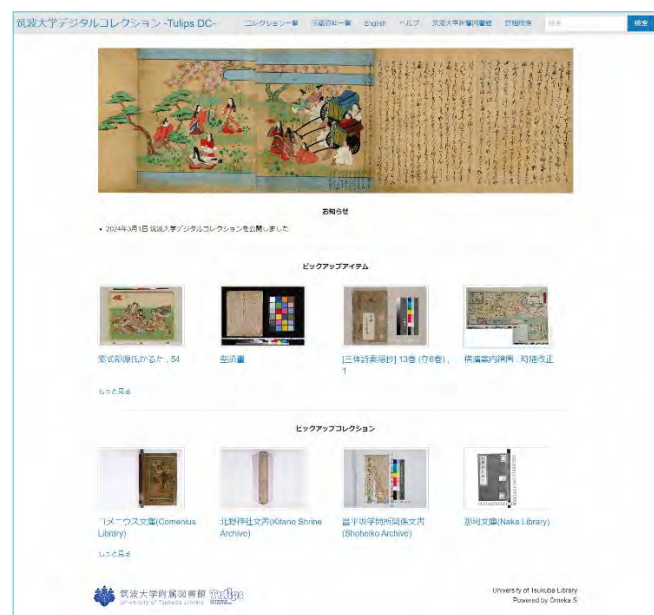
2. 筑波大学デジタルコレクションの構築

1. 背景

当館では、1998 年から毎年数百から数千件、累計で約 2 万冊分の貴重資料等の画像を、OPAC（蔵書検索）の一部、電子図書館機能として順次公開してきました。

電子化画像には複数の形式があり、その時々で対応は行っていたものの、公開時期ごとにデータ形式やビューが異なり操作性に違いがある、また画像やメタデータを外部から利用しづらいという問題がありました。

また、近年の GLAM (Galleries, Libraries, Archives, Museums) における IIIF 対応の世界的潮流に合わせ、これらの画像や資料情報を外部からもより利用しやすくするため、IIIF 対応のデジタルアーカイブシステム、筑波大学デジタルコレクションを、図書館システムの更新の一環として構築することにしました。



筑波大学デジタルコレクション <https://dc.tulips.tsukuba.ac.jp/>

2. 特徴

本システムの特徴の一つは、図書館システムとの連携です。これまでの電子図書館機能の利点であった書誌データの活用を継続する形で、図書館システムから書誌データを送り、デジタルコレクションのメタデータとして利用できるようにしました。これにより、メタデータが非常に充実したデジタルアーカイブになっています。

充実したメタデータがあるため、著者や件名などのフィールドを対象に、同じ値を持つ他のアイテムを一覧できる機能により、分類記号などで同テーマの資料を探すことも容易です。

また、デジタルコレクションと OPAC の間も相互にリンクし、発見や活用をしやすいしました。

デジタルアーカイブのシステムとしてはオープンソースの Omeka-S および Cantaloupe を採用しています。

Omeka-S ではアイテムセットという、複数のアイテムをまとめて表示する仕組みがあります。アイテムセットの単位には、目録データ内の「コレクションコード」と呼んでいる文庫名等の情報を初期値として入力しました。それに加えて、デジタルコレクション独自のアイテムセットを作成できるようにしました。これにより、大小のテーマ別展示のような形をアイテムセットで実現し、コレクションの魅力を伝える試みを行いたいと考えています。

3. 運用

利活用しやすいシステムとするため、ライセンスの整備も行いました。著作権保護期間が終了した資料の電子化画像が主であるため、利用のライセンスは、Rights Statements の「NO COPYRIGHT - CONTRACTUAL RESTRICTIONS」（著作権なし、契約による制限あり）としました。これまでお願いしてきた事前申請を不要とし、調査・研究、教育または学習を目的とする場合に限り、提供元や改変時の明示などを条件としてご利用いただけるように変更しました。利用状況把握のため、連絡フォームから利用後のご報告をお願いしています。

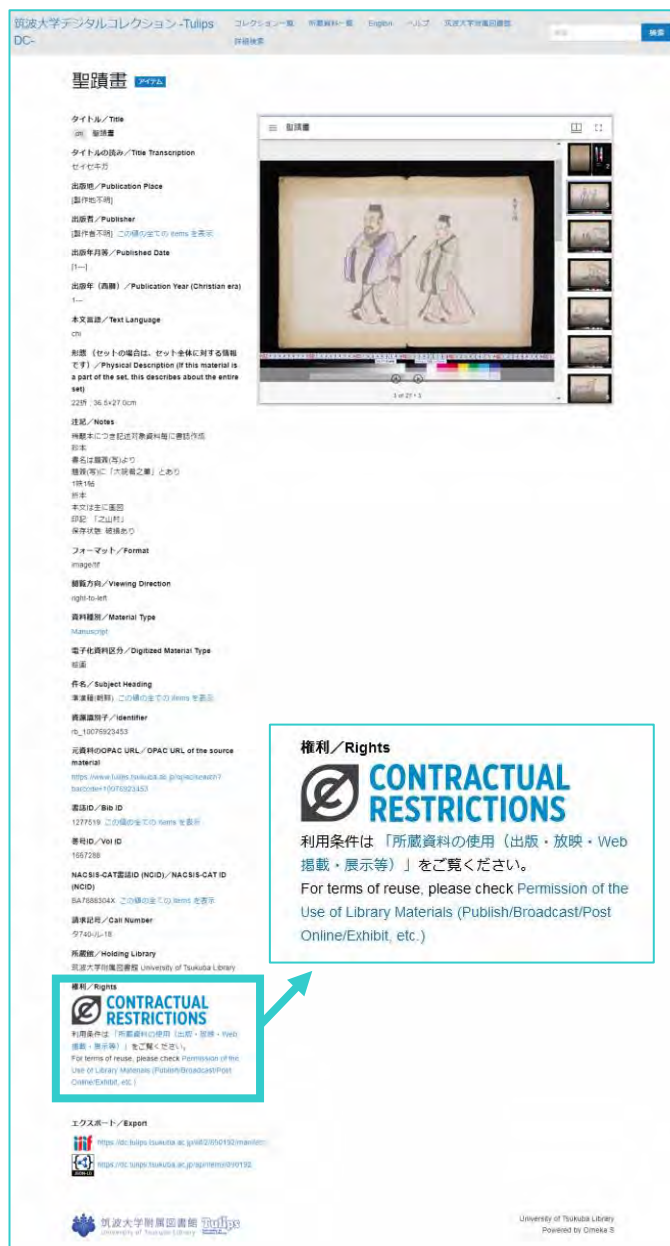
4. むすび

本システムの構築にあたってはシステム面では本学人文社会系の和氣愛仁准教授、メタデータに関しては三原鉄也助教にご協力をいただきました。

今後は、国立国会図書館サーチやジャパンサーチといった外部システムとの連携も進めるなど、より活用しやすいシステムを目指して整備していきます。

(デジタルライブラリ係長 関戸 麻衣)

3 フォーカス (2023 年度の特徴的な活動・事業)



筑波大学デジタルコレクション アイテム詳細画面の例
(Rights Statements 表示あり)



筑波大学デジタルコレクション
コレクションのアイテム一覧ページの例

3 フォーカス (2023 年度の特徴的な活動・事業)

3. 2023 年度企画展「古典籍のインターフェース」開催 ・常設展リニューアル

附属図書館では、1995 年の新館オープンに併せて設置された貴重書展示室において、展示会を開催しています。展示会は、学園祭の時期をはさんで開催される「特別展・企画展」と通年展示されている「常設展」にわけられています。特別展・企画展は、毎年固有のテーマを決めて開催していますが、常設展については「日本の出版文化」というテーマで資料の入れ替えを行いつつ長年にわたり開催してきました。今年度、本学は創基 151 年筑波大学開学 50 周年の節目を迎えました。企画展は会期終了後に常設展にリニューアルすることを前提として、展示内容を企画構成しています。

1. 企画展概要

新型コロナウイルス感染症対策のため図書館の入館制限が続いていましたが、今年度はようやく学外者の入館制限もなくなり、展示会観覧についても制限が緩和され、2023 年 10 月 23 日から 11 月 10 日まで、中央図書館貴重書展示室において「古典籍のインターフェース」を開催し、多くの貴重な資料を現物展示することができました。

今年度の企画展は、附属図書館研究開発室室員である人文社会系・谷口孝介教授の企画・立案のもと、同系・葛西太一准教授、茂野智大助教に協力を仰いで資料の選定等を行い、附属図書館展示 WG が実施に当たる体制で開催されました。

企画展では、文化遺産としての古典籍へのアクセス方法を提案することを目的とし、書物として古典籍を読むために施された様々な仕掛けについて、附属図書館所蔵の貴重な資料をもとに紹介しています。

2. 展示内容

企画展は、第Ⅰ部「本のかたち」、第Ⅱ部「本の構成」、第Ⅲ部「写した本・刷った本」、第Ⅳ部「本を分類する」の 4 つの視点から構成されています。ここでは、それぞれの構成について紹介します。

第Ⅰ部「本のかたち」では、古典籍の形態や装訂に注目しています。書物の最も古い形態は「卷子本」ですが、その後本文の閲覧や保管の不便さから経典等においては「折本」に仕立てなおされます。平安時代ごろには上質の料紙を用い紙の裏表に文字を書き重ね合わせる「粘葉装」や「綴葉装」が流通し、その後江戸時代ごろからは「袋綴」の書物が多くなります。展示では、企画展で展示した資料の装訂について図解パネルを作成し、それらの形態をわかりやすく解説しました。

第Ⅰ部で展示した『住吉物語絵巻』は、室町時代に写された資料で鮮やかな色彩の卷子本です。また、『源氏物語』は紺地の表紙に草木の下絵が金泥で描かれた綴葉装の美品で、黒塗漆抽出筆筥に収納されており、江戸時代の嫁入り本の典型とされるつくりになっています。



『源氏物語』 江戸時代前期

第Ⅱ部「本の構成」では、古典籍の本文に頼ることなく、手に取ってはじめてわかる情報に注目しています。資料の表紙には書名が書かれた題箋が貼られていますが、表紙の改装によって書名が統一されていない場合があります。その場合には、本文の巻頭や目録、序跋に記された内題等と見比べます。また、本文も固定的とはいえず、写本であれば筆写の情報等が奥書等に、刊本であれば出版情報が刊記として付され複数の伝本が存在していることがわかります。

第Ⅱ部で展示した『新古今和歌集』には、奥書はありませんが古筆の鑑定を記した「極札」があり室町時代中期、山崎宗鑑の筆とされています。この資料は、小学館の新編日本古典文学全集『新古今和歌集』の底本に用いられた貴重なものです。また、『伊勢物語』については、伊勢物語古注釈書や真名本（漢字だけで書かれた本）、伊勢物語をもじったパロディ本など、伊勢物語の本文だけでは知りえない情報を含んだ資料も展示しました。

3 フォーカス (2023 年度の特徴的な活動・事業)



『新古今和歌集』 山崎宗鑑写 室町時代中期 (左・極札)

第 III 部「写した本・刷った本」では、古典籍の制作方法に注目しています。その制作方法は、写本と版本に分けられます。手で書き写された写本は中世ごろまでは主流でしたが、手で書き写すということは時間と手間がかかり、元の本との間に様々な違いが生じます。一方で印刷は、同じものを大量に制作できます。第 III 部で展示した『百万塔陀羅尼経』は現存する印刷物として世界最古のものとして知られています。また、『伴善男物語』は国宝『伴大納言絵巻』の写本ですが、原本にはない場面や詞書が見られ大変興味深い資料です。



『伴善男物語』 安永 7(1778)年写

第 IV 部「本を分類する」では、図書館の使命としての収蔵の意味について考えています。収集された資料は、利活用のために分類が必要となり、それらは目録として存在しています。古典籍の分類については中国の分類形式が踏襲されてきましたが、第 IV 部で展示した『漢書』藝文志は現存する中国書目としては最古のものです。その後、四部分類が成立し、漢籍分類法の基礎となっています。また、日本で最古とされる漢籍目録『日本国見在書目録』や、和書最古の分類目録『本朝書籍目録』なども展示しました。書物を内容によって分類するという考え方は、長い年月を経て現在の分類法に受け継がれています。

3. Web ページ公開

展示内容に合わせた Web ページを作成し、様々な情報を発信しています。企画展をより理解していただくために、展示資料の解説を中心とした図録を作成しています。図録は会期中の配布に加え、Web ページからも電子版を公開し、多くの方々に資料として活用されています。また、展示企画者の谷口先生による講演会「古典の分類と目録」も、Web ページから YouTube で公開しています。

2023 年度筑波大学附属図書館企画展については、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2023/>

4. 常設展リニューアル

今年度の企画展は、終了後に一部の貴重書を除き継続展示されています。展示室が開室されてから初めての大幅な常設展リニューアルとなり、企画展で展示された貴重書については、現物展示からパネル展示に変更し、全体をコンパクトにまとめています。また、常設展 Web ページ、常設展図録も作成し好評を得ています。

常設展については、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/permanent-exhibition>

展示室内は壁面ガラスケースを常設展示として使用していますが、平置き展示ケースでは小特集の展示も行っています。小特集は、時にあった内容の資料を紹介しており、今年度は「徳川家康を支えた女性たち」と題し、様々な関連資料を展示しています。

5. まとめ

附属図書館では、貴重資料の保存と公開の理念に基づき展示会を開催しています。展示会は本学で所蔵する貴重な資料を公開し継続的に開催することで一定のスタイルを保ってきましたが、コロナ禍を経験したことにより、現物展示の付加価値とらえていた電子展示の可能性がさらに拡大していくと思われます。来年度は展示会の開催を始めてから 30 年目となります。これからも進化する展示会を目指して頑張りたいと思います。

(古典資料担当専門職員 大久保 明美)

3 フォーカス (2023 年度の特徴的な活動・事業)

4. 相互利用の窓口での支払いにキャッシュレス決済導入

1. 導入経緯

2021 年 9 月に文献複写物自宅郵送におけるクレジットカード決済の導入を行い、メールリンク決済というかたちで、利用者への文献複写物の郵送の他、海外の図書館等から受け付けた文献複写・相互貸借料金の徴収に利用してきました。

ただ、相互利用の料金徴収において、大きな割合を占めているのは窓口で引き渡す文献複写・相互貸借経費の授受であるため、引き続き窓口でのキャッシュレス決済導入の方策を探ってきました。

2. 実施にむけての準備

窓口でのキャッシュレス決済には、専用端末の導入など別途経費が必要であることもあり模索していたところ、2022 年秋に予算の目途が立ったことから、具体的な検討を開始しました。

本格導入にむけては、数か月をかけて複数社に聞き取りを行い、諸条件を考慮して選定しました。使用できる決済手段は、クレジットカード、電子マネー決済となりました。

学内手続きを経て専用端末を導入、事前のテストやマニュアルの整備を経て、2023 年 5 月に窓口でのキャッシュレス決済を開始しました。



キャッシュレス決済端末

3. 導入結果

導入後は問題なく利用されており、利用者からの反応も好評です。現金での支払いも引き続き可能であるため、選択の幅が広がり、利用者にとって利便性が向上しました。

また職員にとっても、現金での支払いがない日が増えたことから、入金処理の手間が軽減されています。

(参考調査係長 高島 恵美子)

5. 図書館情報学図書館の貴重書保存環境の整備

1. カビ被害処理業務の実施

公益財団法人田嶋記念大学図書館振興財団からの助成を得て、以前から課題であった貴重書庫の環境整備を実施しました。2023 年 6 月に今後の貴重書庫の管理方針について打ち合わせを行った後、10 月初旬にクリーニング作業を実施しました。作業内容は、カビ被害の著しい燻蒸対象資料の持ち帰りガス燻蒸処理、書庫内資料の乾式・湿式清拭処理および IPM メンテナンス（書庫の虫害調査、書架・壁面・床面・蛍光灯の清拭処理等）などです。



クリーニング作業中の貴重書庫

2. 資料保存状況の改善

今回のクリーニング作業に伴い、貴重書庫前室の床の絨毯が外部から侵入する虫の温床になりやすいとの業者からの指摘を受けて、12 月に図書館予算によるタイルカーペットへの貼り替え工事を実施しました。翌 1 月には貴重書庫内の空調が古い上、温湿度管理に適していない設備であったため、室温を一定に保つことができる空調システムに更新する工事を行いました。また、図書館情報メディア系教員との連絡調整を行い、管理環境がより整備されている中央図書館の貴重書庫に貴重書の一部を移動することになりました。

今回の整備により、長い間懸案であった図書館情報学図書館の貴重書庫の資料状態と保存環境が大幅に改善されました。

(図書館情報学図書館係長 大越 喜公美)

3 フォーカス (2023 年度の特徴的な活動・事業)

6. LA 企画セミナーを 4 年ぶりに対面形式で開催

1. 概要

2023 年 11 月 7 日（火）、中央図書館 2 階ギャラリゾーンにおいて、中央図書館の学生サポートデスクで活動するラーニング・アドバイザー（LA）の企画によるセミナー「卒論・修論に間に合う 論文執筆のポイント！～参考文献の調べ方・イントロの書き方のノウハウ公開～」を開催しました。4 年ぶりに対面形式での開催が実現した今年度は、卒業論文・修士論文執筆時の参考にしてもらうため、イントロダクションの書き方や参考文献の探し方・管理の仕方について LA がこれまでに蓄積してきたノウハウを共有するという内容でセミナーを企画しました。

2. セミナーの内容

セミナー前半では、分野によって異なるイントロダクションの書き方について、それぞれ教育学・生物学・情報科学のバックグラウンドを有する博士後期課程の LA 3 名から説明がありました。実際に論文執筆を行ってきた LA の経験を基に、実践的かつ汎用的な内容が共有されました。

後半では、参考文献の活用法として、文献の検索及び管理の方法に関する説明がありました。具体的なツールの例として Google Scholar と RefWorks が紹介され、文献を効率的に探し、適切に管理するコツが共有されました。



当日の様子

3. 当日の様子

当日はあいにくの雨でしたが、30 名の学群生・大学院生の参加がありました。事前に募集していた質問に加え、会場での質問も多く出て、時間が足りないほどでした。同じ筑波大生としてのいわば「先輩」でもある LA の回答を聞きながら、参加者が熱心にメモを取る様子も見られ、有意義な会となりました。

（学習支援係長 後宮 優子）

7. 「令和 7 年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」決定

本学では、学生・教職員の研究・教育活動に必要な電子ジャーナルやデータベースの安定的・持続的な整備を実現するため、大学としての整備方針を策定した上で、全学的な経費を充てて整備してきました。この整備方針は、3 年ごとに見直しを行っており、2024（令和 6）年度までとなっている現行方針に続く 2025（令和 7）年度以降の方針をこの度決定いたしました。

1. タスクフォースの設置

方針の検討のため、企画評価・広報担当副学長/附属図書館長を主査とし、研究担当副学長、財務・施設担当副学長、各系長等をメンバーとする「電子ジャーナル整備方針検討タスクフォース」を 2022 年度に設置しました。このタスクフォースにおいて、各系等の教員組織および教員に対してそれぞれ行ったアンケートの結果や、本学における利用・論文投稿の状況、価格等を踏まえて検討を行いました。

2. タスクフォースでの検討・方針の決定

現在対象となっていない電子ジャーナルやデータベース追加の要望も寄せられている一方、本学の厳しい財務状況下では、現状の整備対象資料を継続するだけでも他の経費等の縮減に直結することから、タスクフォースでは、何らかの削減を行わざるを得ないという結論となりました。具体的には、分野に依らず全学的に広く利用されるものを優先し、実施した 2 つのアンケート結果により、利用される分野や利用数（ダウンロード数・検索数）が少ないものを削減対象とすることとしました。

最終的に、2025 年度からは現在の整備対象のデータベースから 2 点を削減し、かつ 2027 年度までの期間中、大学の財政状況等により必要が生じた場合に中止の検討対象とする 8 点を明記する形で整備方針（案）を作成しました。

2023 年度第 17 回運営会議において同案が審議・承認されたことを受け、2025 年度以降の整備方針が確定いたしました。

3. 電子ジャーナルをとりまく今後について

本学では、電子ジャーナル等の整備には科学研究費補助金等の外部資金の間接経費が充てられており、整備対象資料の購読を維持するには、外部資金の獲得を増やすことが求められています。

国内においては、世界的にオープンアクセスの推進が進む中、令和 6 年 2 月 16 日の統合イノベーション戦略推進会議での「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の決定を受け、オープンアクセスの実現に向けた検討が政府主導で進んでいます。附属図書館はその動きも注視しつつ、本学の教育研究環境の維持・向上に向けて取り組んでいます。

（情報企画課主幹 廣田 直美）

4 職員の活動

1. 国際シンポジウム「大学における研究データ管理の意義と支援人材育成」への参加

1. 概要

2023 年 6 月 19 日に開催された国際シンポジウム「大学における研究データ管理の意義と支援人材育成」にオンラインで参加しました。本シンポジウムでは、「研究データ管理の意義について考え」、「今後の日本の大学における研究データ管理支援の在り方について議論する」ことを趣旨とし、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校と九州大学から講師を招き、同時通訳付きのシンポジウムとして開催されました。

2. 講演内容

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校からは Peter Darch 情報学部・助教が「図書館における研究データ基盤の構築：文化と価値観の影響」について、J. Stephen Downie 情報学部・教授が「人文社会科学におけるビッグデータの活用：HathiTrust Research Center の事例」について講演されました。また、九州大学からは冨浦 洋一データ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門・部門長が「研究データ管理支援部門の活動」について、石田 栄美データ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門・教授が「ライブラリーサイエンス専攻の研究データ管理支援人材履修証明プログラム」について講演されました。

3. 参加を通して

日本も世界の潮流を受けて研究データの公開に向けて舵を切ったため、今後図書館員は否応なく研究データ管理支援に関わらざるを得ないと思われます。講演の中では、「研究者にとっては負担が増える部分もあり、研究データ管理への意識が高いわけではない」との指摘があり、大学が国の方針に則り円滑に研究データを公開していくためには、研究者が適切に管理するための環境の整備を大学側で行うとともに、研究データ管理支援部門を設置するなどして研究者への支援を行う必要があると説かれていました。今後筑波大学においても、九州大学が設置したような「研究データ管理支援部門」や「研究データ管理支援人材履修証明プログラム」が設置される可能性は十分にあると思いますので、その際に貢献できるよう業務に努めたいと思います。

(リポトリ担当 大石 証洋)

2. JADH2023 ワークショップへの参加

1. 概要

国文学研究資料館主催の年次国際大会 JADH2023 がオンライン開催され、私は 2023 年 9 月 22 日のワークショップに参加しました。

午前のワークショップ「DH データ基盤としてのデータセット～利用と提供から考える」では、「データセットの利用事例の紹介と要望」として異なる分野の 4 人の研究者が登壇し、データセットや他システム連携の経験を紹介しました。

午後のセッション「研究者とライブラリアンとの対話：データ駆動型人文学の推進に向けたラウンドテーブル」では、研究者とライブラリアンの対話が行われました。

以下、午前と午後のセッションで興味深かった内容を簡単に抜き出してみます。

2. 午前のセッション

顔貌コレクション（顔コレ）

美術作品に出現する顔の部分を取り取って集め、美術史研究に活用するプロジェクトです。

edomi

現代の観光視点で古典籍などに登場する情報を構造化して提供しているデータポータルです。

ICP (IIIF Curation Platform)

顔コレと edomi は ROIS-DS 人文学オープンデータ共同利用センター開発の ICP を利用しています。

言語資源データ

自動詞と他動詞の使い分けなどを学ぶために、現代日本語書き言葉均衡コーパス、日本語話し言葉コーパス、名大会話コーパスを活用しています。

歴史ビッグデータにおける時空間データの利活用

時間や場所の識別子を付与するために HuTime と GeoLOD を活用しています。

アラビア語テキストデータの利用事例

PDF 画像からアラビア語テキストを抽出できないため、公開されているアラビア語のテキストデータセット OpenITI を活用しています。

4 職員の活動

3.2023 年度大学図書館 職員短期研修への参加

3. 午後のセッション

午後のセッションでは、5名の登壇者による非常に興味深いディスカッションがありました。以下、ディスカッションの内容の一部を紹介します。

- ジャパンサーチと SPARQL のエンドポイントを活用することで、研究者は様々なデータを効率的に検索できるようになります。これは非常に有用です。
- 各大学図書館がデジタルアーカイブの標準化を進め、ジャパンサーチを通じて一元化するアプローチは、研究データ管理の一環としてデジタル・ヒューマニティーズ（DH）を位置づける上で重要です。
- 画像だけでなく、機械可読なテキスト系の研究も重要です。TEI を活用して階層的に記述する方法は、基礎的なサポートとして期待されています。
- 図書館員は学内の研究データ管理において重要な役割を果たしています。リソースの限られた状況でも、学内を巻き込みながらリーダーシップを発揮することが求められています。

最後に、これからも図書館と研究者の連携を強化し、デジタル・ヒューマニティーズの発展に貢献していきましょうと締めくくられました。

デジタル・ヒューマニティーズの現状を聞いて目から鱗が落ちる思いがするとともに、思った以上に進んでいる人文学研究に図書館としてもっと協力したいという気持ちが沸き起こったシンポジウムでした。

（情報企画課主幹 真中 孝行）

1. 概要

2023 年 10 月 17 日（火）から 20 日（金）にかけて、2023 年度大学図書館職員短期研修に参加しました。本研修は、国内外の大学図書館等における最新の動向・事例を学び、図書館業務の推進・改善について、主体的に考えることができるようになることを目標として開催されています。2023 年度は東京大学総合図書館で行われ、4 年ぶりとなる対面での開催でした。研修は 11 の講義と 3 日間にわたるグループ討議および成果報告を行うという構成でした。

2. 研修内容

講義では主に大学図書館の業務に関する基礎的な知識、現状や課題に関するお話がありました。具体的には電子コンテンツの導入や提供、学術コミュニケーションの動向、情報リテラシー教育支援、目録実務、資料保存等多岐にわたる内容でした。また国立大学図書館協会の海外派遣事業に関する報告や大学図書館職員のスキルアップ方法に関する講義も受講し、これからの大学図書館等を担う要員として活用できそうなヒントやきっかけを得ることができました。なお講義内容の詳細については、以下の Web サイトに掲載されています。

(<https://contents.nii.ac.jp/hrd/librarian/2023/librarian>)

グループ討議は、1つのテーマについて複数名の班でそのテーマの課題や意見を出し合い、問題を整理することで新たな「気づき」を得ることを目的に実施されました。「オープンアクセス・オープンサイエンスを推進する図書館職員の役割」、「大学図書館の職員として成長する方法を考える」等について各班で討議を行い、他機関の職員と交流を深めながら知見を広げることができた貴重な経験となりました。

3. 研修に参加して

大学図書館職員短期研修は約 40 名の全国の大学図書館等の職員が集い、グループ討議等を通じて交流することができた有意義な研修でした。日々学ぶことの大切さ、学ぶだけではなくインプットしたことを実践に活かしていく難しさ等、様々なことを学ぶことができました。

最後に、研修への参加を支えてくださった附属図書館の皆様へ御礼申し上げます。研修に参加する機会を与えてくださりありがとうございました。

（医学図書館 齊藤 真以）

4 職員の活動

4. 令和 5 年度図書館等職員 著作権実務講習会への参加

1. 概要

令和 5 年度図書館等職員著作権実務講習会は、事前に講義映像の視聴、会場にて試験受験の流れで行われました。

① 講義映像の視聴

受講者に送付された視聴用 URL より、10 月 16 日から 11 月 22 日までに「著作権法概論」、「著作権法各論Ⅰ」、「著作権法各論Ⅱ」の講義映像を視聴しました。動画は、期間内であれば繰り返し視聴することが可能でした。

② 試験

12 月 15 日に一橋講堂（東京都千代田区）にて試験を受験しました。受験後その場で解答・解説があり、後日、試験の成績が良好な者に、修了証書が交付されました。

2. 講習会を受講して

今回の講習会では、著作権の制度・権利の内容・保護期間など、言葉の意味から改めてしっかりと確認しました。さらに、著作物などの「例外的な無断利用」ができる場合について、条文を参照しながらテキストに記載された事例について考えたことで、著作権のポイントを把握することができました。特に、図書館が複製できる 3 つの場面、「複写サービス」「保存の必要がある場合」「他の図書館などの求めに応じて絶版等資料の複製物を提供する場合」の講義は、現在の担当業務の理解に役立ちました。

さらに、授業目的公衆送信補償金制度（令和 2 年 4 月 28 日施行）、国立国会図書館に認められている個人向けの絶版等資料の送信サービス（令和 4 年 5 月 1 日施行）、特定図書館等における公衆送信（令和 5 年 6 月 1 日施行）についても学びました。近年に改正・施行された著作権法について、知識が深まりました。

著作権は判断に迷う場面もありますが、この講習会を受講して、著作権の考え方を学ぶことができました。受講によって得た知識を、今後とも活かしていきたいです。また、新型コロナウイルスの流行により、法律にも大きな変化があったのだと感じました。世の中の動向に注意しつつ、常に最新の情報を得る重要性を感じた受講となりました。

（参考調査担当 岩村 良子）

5. 令和 5 年度障害者サービス 担当職員向け講座への参加

1. 概要

2023 年 11 月 28 日から 30 日にオンラインで開催された「令和 5 年度 障害者サービス担当職員向け講座」に参加しました。本研修は、図書館における障害者サービスの基礎的な知識および技術の習得を目的として開催されました。全 10 回の講義と、全 2 回の体験講座に参加し、障害者サービスへの理解を深めました。

2. プログラム内容

講義では、読書バリアフリー法の概要や、電子図書館サービスとアクセシビリティなど、現在の障害者サービスを取り巻く状況を学びました。また、全講義を通して講師の発言に合わせて字幕と手話通訳がリアルタイムで表示されており、研修参加者に対しても情報保障がされていました。

体験講座では、「言葉のマップ作成」、「みなサーチβ版で提供する全文テキストデータを視覚障害者が利用する方法（iPhone/iPad 編）」に参加しました。

言葉のマップは言葉による道案内です。事前課題として最寄りの公共交通機関から筑波大学中央図書館までの言葉のマップを作成し、発表しました。マップ作成を通して図書館周辺のバリアフリー環境を改めて見つめ直すことができました。

みなサーチβ版は 2024 年 1 月に正式公開され、「みなサーチ 国立国会図書館障害者用資料検索」となりました。体験講座では iPhone のアクセシビリティ機能「Voice Over」を用いて、視覚障害者がどのように検索・ダウンロード・読み上げを行うのか体験しました。

3. 研修に参加して

研修を通して、小さな工夫から利用を妨げるバリアを減らしていくことができることを学びました。例えば、掲示物にユニバーサルデザインフォントを使用すること、色の見え方に配慮することなど、ほんのひと手間の工夫が誰もが利用しやすい図書館にするための一歩となります。研修に参加したことによって、当館の抱える課題も見えてきました。今後は、研修で学んだことを活かし、利用者のニーズに合った障害者サービスを進めていきます。

（多様化支援担当 保立 桃果）

4 職員の活動

6. 執筆活動

執筆者	タイトル	掲載媒体	公開URL等
大和田康代 並木映李香	大学図書館職員長期研修 オンライン開催を経て見えたもの	図書館雑誌. 2023, 117(4), p.196-198	https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/2006836 (つくばリポジトリにて公開)
大久保明美	筑波大学附属図書館における電子展示のありかた	図書館雑誌. 2023, 117(8), p.460-461	https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/2008696 (つくばリポジトリにて公開)
石津朋之	コロナ禍への対応を経て進化する筑波大学の図書館サービス (特集 新型コロナウイルス感染症以後の大学図書館業務)	大学の図書館. 2023, 42(11), p.152-154	https://www.daitoken.com/publication/OA.html (大学図書館研究会出版物 公開サイトにて、1 年間のエンバークを経て公開)

7. 研修における講師等

開催日	氏名	イベント	テーマ
2023.10.2-12.15	菌部明子	令和 5(2023)年度国立大学図書館協会近畿地区協会事業「大学におけるデジタル技術の活用に関する事例報告会」(オンライン (動画)) https://www.janul.jp/ja/regional/kinki/other_kinki	「事例報告：チャットレファレンスの試行について」
2023.11.18	和氣愛仁 (人文社会系)、真中孝行、関戸麻衣、田村香代子	国際シンポジウム「デジタル・ヒューマニティーズと研究基盤：欧州と日本の最新トレンド」(東京ビッグサイト) https://dhsympo2023.dhii.jp/	「ポスター・デモンストレーションセッション：筑波大学附属図書館における図書館システムと IIF 対応デジタルアーカイブの連携」
2023.12.12	大和田康代	令和 5 年度国立大学図書館協会シンポジウム「オープンサイエンス時代の大学図書館員像：これからの＜人材＞構築にむけて」(東北大学、オンライン) https://www.janul.jp/ja/news/20231101	パネルディスカッションと質疑応答
2024.1.17	石津朋之、大石証洋	第 4 回 JPCOAR Webinar「IRDB-カラクリと役割：どこから・どこへ・どのように-」(オンライン) https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2023#news_20240115	「機関リポジトリとの連携：筑波大学・信州大学の実務から」 https://doi.org/10.34477/0002000350

8. 職員研修会

日付	場所	講師・発表者	参加者数
令和 5 年度研究開発室研究成果報告会			
2024.3.7	中央図書館 集会室	島田康行、谷口孝介、和氣愛仁 (人文社会系)、高久雅生、小野永貴 (図書館情報メディア系)	26 名

5 トピックス

1. サービス・活動

日 付	内 容
2023.4.1	時間外利用の再開（大塚）
2023.5.8	時間外利用の再開（図情）
2023.5.9	新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用制限緩和（セミナー室・多目的学習室）
2023.5.9	相互利用の支払いにキャッシュレス決済が利用可能になった
2023.8.5, 8/6, 8/11	筑波大学オープンキャンパス 2023 で館内見学実施
2023.9.5-9.7	館内整備日のため臨時休館（大塚 9/5、中央 9/6、体芸・医学・図情 9/7）
2023.10.19	令和 7 年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針決定
2023.10.28-10.29	電気設備点検に伴う全学停電のため臨時休館（中央、体芸、医学）
2023.12.20	中央図書館研究個室・医学図書館セミナー室で有線 LAN が使用可能になった
2024.1.13-1.14	大学入学者選抜のため臨時休館（中央、体芸、医学、図情）
2024.2.6	医学図書館の 360°VR 画像を公開
2024.2.25-2.26	大学入学者選抜のため臨時休館（中央、医学）
2024.3.1	図書館システム更新、「筑波大学デジタルコレクション」公開
2024.3.12-3.14	館内整備日のため臨時休館（大塚 3/12、中央 3/13、体芸・医学・図情 3/14）

2. イベント・セミナー・授業

日 付	内 容	主 催	場 所
2023.5.31	CEGLOC Academic Writing Support Desk 利用ガイダンス	グローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC)	中央図書館 チャットフレームC
2023.8.4	「プロジェクトワーク日本語」発表会	担当教員 吉陽（グローバルコミュニケーション教育センター）	中央図書館 チャットフレームC
2023.10.2	ランチタイム トークセッション RE: ディスカバー チュニジア ～ 地中海・北アフリカ地域を語る 会 ～	国際局国際室（筑波大学チュニスオフィス）	中央図書館 チャットフレーム C
2023.10.17	CEGLOC Academic Writing Support Desk 利用ガイダンス	グローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC)	中央図書館 チャットフレーム側 ギャラリーゾーン
2023.12.7	生成 AI を英語アカデミック・ライティングに活用 する	グローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC)	中央図書館 チャットフレーム側 ギャラリーゾーン
2024.1.30	おりがみ講習会 : Origami Workshop	附属図書館ボランティア	中央図書館 チャットフレームC
2024.2.9	「プロジェクトワーク日本語」発表会	担当教員 吉陽（グローバルコミュニケーション教育センター）	中央図書館 チャットフレーム側 ギャラリーゾーン

5 トピックス

3. 展示

日 付	内 容	主 催
中央図書館 展示		
2023.4.10～5.31	創基 151 年開学 50 周年事業「自然を見る、感じる、記録する ―ナチュラリスト 青柳昌宏のスケッチと軌跡―」	自然保護寄附講座ほか
2023.4.12～5.7	図画団新歓展示	美術サークル図画団
2023.5.22～6.2	プライドマンス 推薦図書フェア	ヒューマンエンパワーメント推進局
2023.6.5～8.31	LA 企画展示「学生サポートデスクで働くラーニング・アドバイザーを知ろう!!」	附属図書館ラーニング・アドバイザー
2023.7.8～7.31	筑波大学写真部夏の展示会	写真部
2023.10.23～10.30	オープンアクセスおよびリポジトリに関するポスター展示 (Open Access Week 2023)	附属図書館
2024.1.16～1.31	セクシャルマイノリティ写真展「OUT IN JAPAN @筑波大学」	ヒューマンエンパワーメント推進局
2024.3.4～3.22	国際女性デーフェア展示	ヒューマンエンパワーメント推進局
2024.3.4～3.19	附属図書館研究開発室成果報告ポスター展示	附属図書館
体育・芸術図書館 展示		
2023.4.5～5.31	筑波大学写真部春の展示会	写真部
2023.4.12～5.6	図画団春の展示会	美術サークル図画団
2023.3.28～2024.3.31	壁面マスキングテープアート	芸術専門学群学生、上浦佑太 (芸術系)
2023.3.31～2024.3.31	「東京 2016 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた招致活動」展	体育系
図書館情報学図書館 展示		
2023.2.16～5.19	「わたしの大切な書物 ～蔵書票の視点から歴史に触れる～ Part2」	附属図書館 (図情図書館) / 共催: 図書館情報メディア系綿抜・ 時井研究室
2023.11.3～2024.3.27	「東海道五十三次から読み解く江戸の暮らし」	附属図書館 (図情図書館) / 共催: 図書館情報メディア系綿抜・ 時井研究室

4. 見学・来訪者

日 付	内 容
2023.7.28	東京都市大学等々力高等学校 66 名
2023.8.1	新潟県立新潟高等学校 理数科 2 年 39 名
2023.11.8	沖縄県立球陽高等学校 理数科 2 年 42 名
2023.12.4	熊本県立第一高等学校 普通科 1 年 42 名
2024.1.24	大邱大学校 (韓国) 学生・教員 30 名

※全 78 件 (1,989 名) から抜粋したもの。

5 トピックス

5. オリエンテーション・講習会

内 容	開催方法			参加者・視聴者
	対面	オンライン	動画提供	
新入生オリエンテーション（学群生）	-	-	1 回	2,169 名
新入大学院生オリエンテーション（院生）	1 回		1 回	87 名
留学生オリエンテーション	4 回	-	1 回	48 名
新任教員オリエンテーション	資料提供 1 回			-
図書館の本や雑誌の探し方講習会	-	-	2 回	33 名
論文の探し方講習会	1 回	13 回	16 回	776 名
自由テーマオリエンテーション	5 回	-	-	53 名
科目関連指導	15 回	1 回	4 回	2,317 名
（内訳）ファーストイヤー・セミナー	9 回	1 回	2 回	2,160 名
理療科施設生オリエンテーション ほか（大塚図書館）	6 回	-	2 回	157 名
その他	-	5 回	6 回	159 名

※新任教員オリエンテーションは資料アップロードをもって実施とし、参加者数は集計しない。

※「オンライン」はオンライン上での生配信による開催、「動画提供」はアップロードされた動画を視聴する形式での開催。

※「オンライン」開催時に録画した動画をアップロードして提供した場合、「オンライン」「動画提供」それぞれ「1 回」と数える。

日 付	内 容	講 師	参加者数
ライティング支援連続セミナー 実践！レポート・論文の文章術（対面）			
2023.10.12	文書の目的と構成を考える	三波千穂美（図書館情報メディア系）	10 名
2023.10.19	下書きから学術的な構成の文章を書く	田川拓海（人文社会系）	23 名
2023.10.26	事実と意見	野村港二（生命環境系）	15 名
2023.11.2	文字と絵	野村港二（生命環境系）	10 名
2023.11.9	学術論文とそのほかの文章の種類	小泉公乃（図書館情報メディア系）	17 名
2023.11.16	レポート執筆から論文投稿へ ～書いた文章を学会に出す基本と注意点～	小野永貴（図書館情報メディア系）	15 名
LA（ラーニング・アドバイザー）企画（対面）			
2023.11.7	「卒論・修論に間に合う 論文執筆のポイント！ ～参考文献の調べ方・イントロの書き方のノウハウ公開～」	池本悠香、上原礼佳、岸川知樹、才鷹武也、 齋藤詳太、高田琉菜、藤朱里、矢川嵩 （附属図書館ラーニング・アドバイザー）	30 名
その他の研究・学習支援企画（対面）			
2024.1.19	令和5年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH）特別講座 「学術情報の探し方」 （筑波大学附属駒場中・高等学校）	松家久美、後宮優子（アカデミックサポート課）	122 名

5 トピックス

6. 研修・シンポジウム

日 付	内 容
2023.7.3～7.14	令和5年度大学図書館職員長期研修（受講生 30名）
2023.7.31, 8.2	職場体験（つくば市内中学校 2校 7名）
2023.8.28～9.8	インターンシップ（筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 2名）
2024.2.1	インターンシップ（釜山大学校 8名）

7. 会議

日 付	内 容
2023.4.27	つくば市域図書館連携協議会
2023.5.17／2024.1.29	附属図書館収書専門委員会
2023.5.23／2024.3.14	附属図書館研究開発室運営会議
2023.6.1／10.2／2024.2.20	附属図書館運営委員会
2023.6.15／7.25／9.15	電子ジャーナル整備方針検討タスクフォース
2023.6.16／12.15	附属図書館ボランティア専門委員会

8. 研究開発室

プロジェクト名	担当室員／協力者
ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討	島田康行（人文社会系）、野村港二（生命環境系）、小泉公乃（図書館情報メディア系）、小野永貴（図書館情報メディア系）／三波千穂美（図書館情報メディア系）、田川拓海（人文社会系）、学習支援推進 WG（学術情報部）
附属図書館における貴重資料の保存と公開	谷口孝介（人文社会系）、水野裕史（芸術系）／葛西太一（人文社会系）、茂野智大（人文社会系）、特別展 WG（学術情報部）
図書のロバスト性評価法の確立	江前敏晴（生命環境系）／望月有希子（生命環境系）
利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討	高久雅生（図書館情報メディア系）、宇陀則彦（図書館情報メディア系）、熊淵智行（学術情報部）／関戸麻衣、田村香代子、西彩花、真中孝行（学術情報部）、大阪奈都子（知識情報・図書館学類）
デジタル画像の利用促進	宇陀則彦（図書館情報メディア系）、和氣愛仁（人文社会系）、堤智昭（人文社会系）／三原鉄也（人文社会系）、真中孝行、関戸麻衣、田村香代子、西彩花（学術情報部）
バーチャル図書館コンテンツの研究開発	小野永貴（図書館情報メディア系）、宇陀則彦（図書館情報メディア系）／松村敦（図書館情報メディア系）、沼口天（情報学学位プログラム）、佐藤翔（同志社大学免許資格課程センター）、高野和彰（日本大学芸術学部）、多様化支援担当（学術情報部）

6 メディアにみる 附属図書館

1. 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日 付	掲載元	メディア	掲 載 内 容
2023.11.1	筑波大学新聞	新聞	附属図書館で企画展開催
2023.12.11	文教速報	雑誌	筑波大図書館で企画展：古典籍のインターフェース
2024.2.9	MILK（知識情報・図書館学類誌）	雑誌	参考図書の世界
2024.3.11	カレントアウェアネス-R	Web	筑波大学附属図書館、「筑波大学デジタルコレクション」を公開

2. 筑波大学附属図書館の刊行物

附属図書館年報 2022 年度

筑波大学附属図書館研究開発室年次報告 2022

Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)

No.129 中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2023

No.130 2023 年度附属図書館 LA 企画「卒論・修論に間に合う 論文執筆のポイント！～参考文献の調べ方・イントロの書き方のノウハウ公開～」を開催しました！

3. 筑波大学出版会の刊行物

発行日	タイトル	著 者
2023.4.26	日常のかたち—美学・建築・文学・食	対馬美千子・山口恵里子 編
2023.5.26	Radionuclides in the Marine Environment	by Michio Aoyama, Yayoi Inomata, Hideki Kaeriyama, Yuichiro Kumamoto, Shigeyoshi Ootosaka, Yutaka Tateda and Daisuke Tsumune
2024.3.28	ようこそ、山岳と大気がおりなす世界へ	上野健一 著

6 メディアにみる 附属図書館

4. 出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料

許可日	内 容	資料種別	資料名	資料 ID	掲載書名等
2023.4.11	影印	和装古書	荒暦, 應永 17 年	10076738457	「号外! 日本史スクープ砲 # 45 足利義満」
2023.4.11	影印	和装古書	1.[木代修一直筆原稿集] 2.[草體五十音圖および單語の圖]; 改正小學入門雙六; 連語圖; [五十音の圖等]	1.10000608577 2.10088015210	放送大学印刷教材『テーマで学ぶ日本教育史 (2024)』
2023.4.26	影印	貴重書	和泉式部物語	10076701007	岡田貴憲著『平仮名日記本文考』(武蔵野書院)
2023.5.8	影印	和装古書	寒川入道筆記	10076722176	朝日新聞出版編著『お江戸脳トレ帳』(朝日新聞出版)
2023.5.8	影印	和装古書	駿府御城郭之圖	10076879701	YUKIMURA『日本人なら絶対行きたい名城 200』(宝島社)
2023.5.25	影印	和装古書	第十四上中下次第	10076916512	『戦国武士と馬』(馬の博物館 2023 年度秋季特別展図録)
2023.8.29	影印	和装古書	有馬私雨, 第 2	10076719074	群馬県立歴史博物館第 109 回企画展『温泉大国ぐんま』図録
2023.11.24	翻刻	和装古書	望遠雜録, 卷之 1-8	10076859414	森田貴之著「平家物語評判書の世界—その環境と相互関係—」『平家物語評判書集成』(汲古書院)
2023.12.11	影印	本学	校友会誌	-	E テレ「先人たちの底力 知恵泉」嘉納治五郎編後編
2024.3.15	影印	和装古書	伊豆日記, 下	10076905313	小島瓊禮『猫の王: 猫伝承とその源流』(角川ソフィア文庫)

※全 42 件から抜粋したもの。

7 附属図書館 ボランティアの活動

附属図書館ボランティアは新型コロナウイルス感染症の影響により利用者と対面する活動を制限していましたが、令和5年度はすべての活動を再開しました。

1. 2023 年度ボランティア構成

- 26 名 (● 更新：23 名、● 新規：3 名)

2. 活動統計

1 総合案内

- ボランティアカウンター 462 人
(学内者：408 人 学外者：54 人)
- 図書館見学案内 30 件 367 人
- 対面朗読 23 時間

2 利用環境整備

- シェルフリーディング書架数 2,000 連
- ラベル補修 1,953 冊
- 図書修理冊数 476 冊

3 体芸図書館ポスター整理 233 枚

3. 年間行事

1 創基 151 年開学 50 周年記念行事

10 月 1 日に開催された「創基 151 年筑波大学開学 50 周年記念イベント～DESIGN THE FUTURE Marché～」において、永田学長から永年の活動に対し、感謝状の贈呈を受けました。



2 附属図書館ボランティア懇談会 10 月

1 年間のボランティアの活動報告や、意見交換を行いました。

3 附属図書館ボランティア講演会 11 月

『古事記』と『日本書紀』

吉森佳奈子 (人文社会系 准教授)

古事記と日本書紀の比較や日本書紀中の浦島太郎の記述など、たいへん興味深い内容の講演会でした。

4. 各種活動

1 総合案内

新型コロナウイルス感染症の影響で 3 年ぶりの活動となりました。ボランティアカウンターでの図書館の利用案内や、図書館利用者を目的の書架までご案内するなど、利用援助を行っています。



2 シェルフリーディング

図書の配置の乱れを直し、書架の清掃をするなど、利用環境の改善を行っています。

3 図書修理

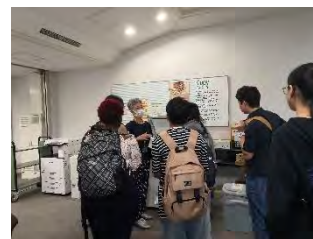
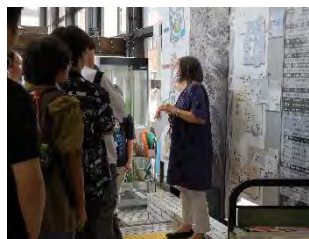
表紙やページが取れてしまった資料の修理を行っています。破損の状況に応じた、資料を傷めない修理を心がけています。

4 体芸図書館ポスター整理活動

図書館に送られてきた美術館等のポスターの掲示やデータ入力を行っています。現在では 1 万件を超えるデータからなる展覧会ポスターデータベースを構築しています。

5 図書館見学

3 年ぶりに活動を再開しました。大学見学で来学した高校生や、海外からのお客様を案内しました。



6 日本文化紹介

留学生に日本文化を紹介する「おりがみ講習会」を 1 月 30 日に開催しました。参加者はボランティアを含めて計 15 名でした。留学生だけではなく日本人学生も参加し、英語を交えた会話を楽しみながら交流を深めました。

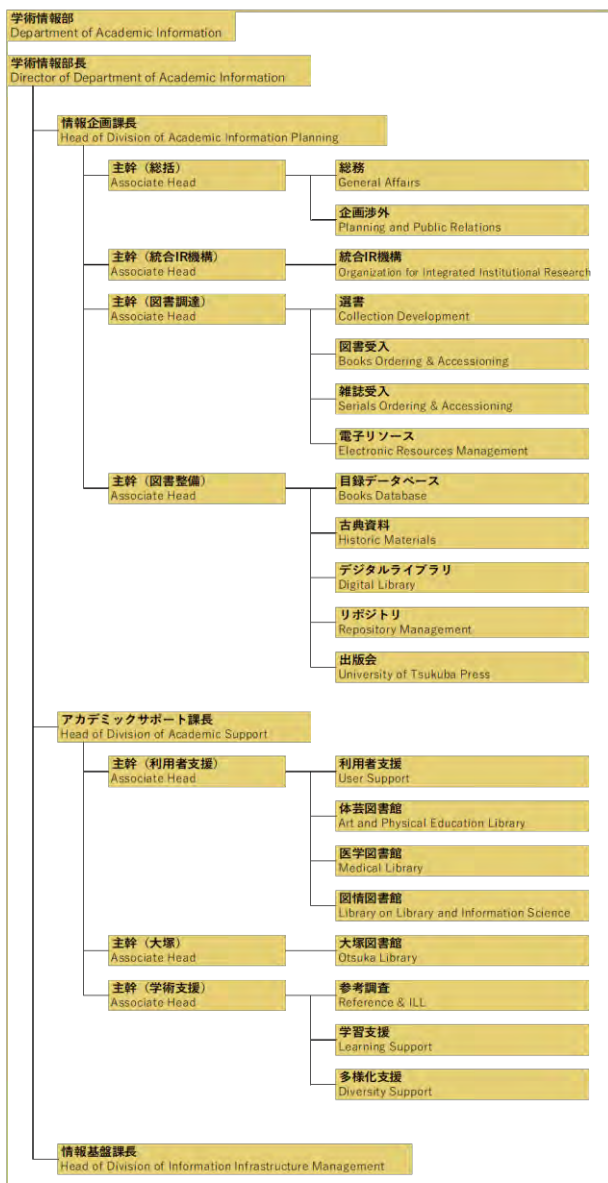
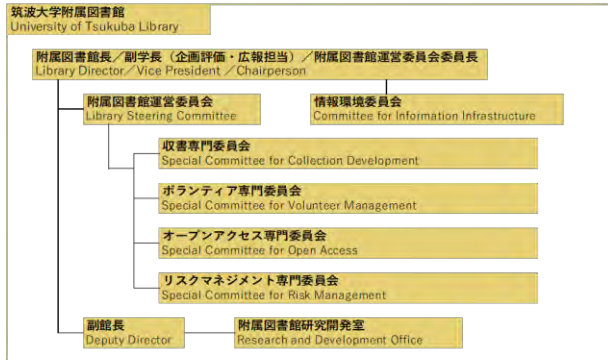


(多様化支援係長 飯田 貴子)

8

組織図・歴代図書館長

1. 組織図

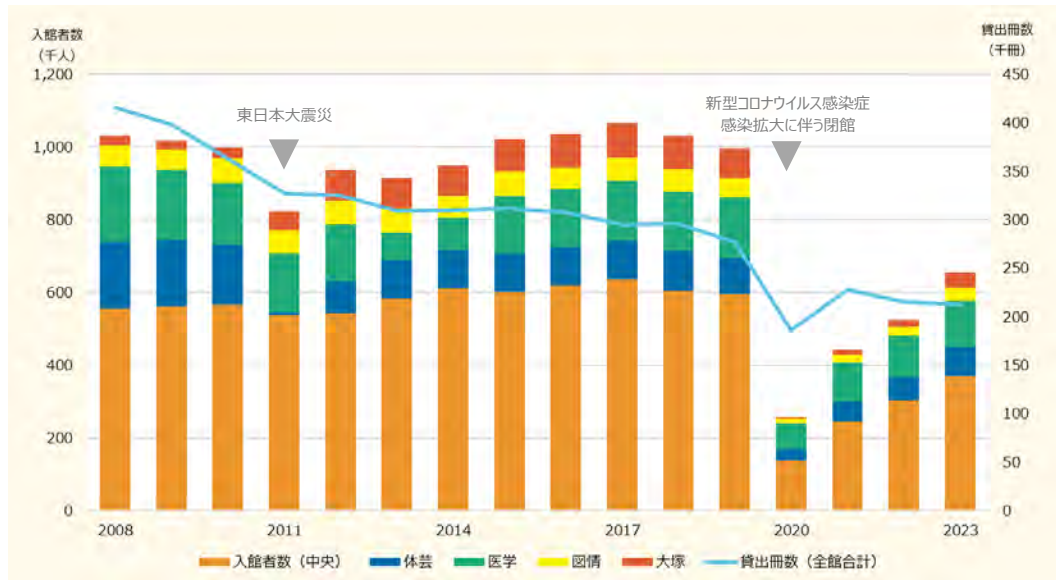


2. 歴代図書館長

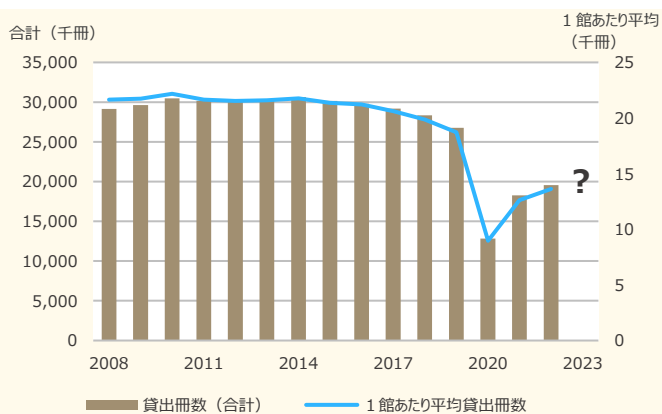
	名 前	期 間	備 考
高等師範学校・ 東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日 ～ 明治36年9月6日	図書係事務監督
	三宅 米吉	明治32年9月7日 ～ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日 ～ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ～ 昭和7年3月3日	
	諸橋 徹次	昭和7年3月4日 ～ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ～ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ～ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ～ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日 ～ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ～ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ～ 昭和35年4月30日	
	肥後和男	昭和35年5月1日 ～ 昭和38年3月31日	
	山崎 宏	昭和38年4月1日 ～ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ～ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ～ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ～ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日 ～ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日 ～ 昭和47年3月31日	
	武藤 駿雄	昭和47年4月1日 ～ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ～ 昭和53年3月31日	
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日 ～ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日 ～ 昭和50年4月1日	
	酒井 忠夫	昭和50年4月2日 ～ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ～ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日 ～ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日 ～ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ～ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日 ～ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日 ～ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日 ～ 昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日 ～ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日 ～ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日 ～ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日 ～ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日 ～ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日 ～ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日 ～ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ～ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日 ～ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日 ～ 平成24年3月31日	
	中山 伸一	平成24年4月1日 ～ 平成28年3月31日	2期
	西川 博昭	平成28年4月1日 ～ 平成30年3月31日	
	阿部 豊	平成30年4月1日 ～ 令和3年3月31日	
	池田 潤	令和3年4月1日 ～ 令和5年3月31日	
	西尾チヅル	令和5年4月1日 ～	

1. 推移と分析

(1-1) 入館者数と貸出冊数

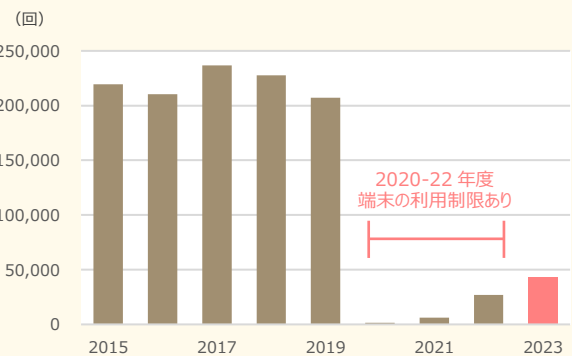


(1-2) 全国の大学図書館における貸出冊数



※文部科学省「学術情報基盤実態調査（大学図書館編）」より集計

(2) 全学計算機システムログイン回数



※図書館内に設置されている全学計算機端末からログインが行われた回数（全館合計）
※2020～22年度は端末の利用制限あり。2023年度は年間を通して利用制限なし

2008年度からの入館者数と貸出冊数の推移を、(1-1)のグラフで表しました。2023年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う図書館の利用制限がほぼなくなった状態で1年間を過ごすことのできた最初の年だったと言えます。それでは利用状況もコロナ前の水準に戻っているかという、必ずしもそうではないようです。2019年に年間100万人ほどだった入館者数は、2023年度は70万人ほどにとどまっています。貸出冊数も、コロナ禍中の減少幅は入館者数ほどではなかったものの、ここ3年ほどは2019年度の7割程度の水準で推移しており、コロナ前から微減傾向が続いているように見えます。一方、ここにはグラフを出していませんが電子資料の利用件数は徐々に増加しており、長いスパンで見た場合に利用傾向が変化しつつある可能性についても考える必要がありそうです。

他の大学図書館ではどのような状況なのでしょう。全国の大学図書館を対象に毎年実施されている「学術情報基盤実態調査」から、「館外貸出サービス」のデータを取得してグラフにまとめたのが(1-2)です。1館あたりの平均貸出冊数は長らく横ばいでしたが、2017年度あたりから少し減り始め、2022年度時点ではコロナ前

の6-7割程度にとどまっています。ただ2021年度、22年度と増加傾向にあるのは本学の傾向と異なっているようにも見え、2023年度の結果が気になるところです。

コロナ禍を経た利用傾向の変化の例としては、図書館内に設置した端末の利用の減少が挙げられます。館内の全学計算機端末から行われたログイン回数の推移を(2)のグラフで示しました。2020年度は大学自体の入構制限や授業のオンライン化という大きな制約があったほか、2022年度の途中までは感染症対策で端末の利用を制限していたために、ログイン数は激減しました。しかし、年間を通して利用制限のなくなった2023年度においても、ログイン回数はコロナ前の5分の1程度という数字でした。設置台数の変動はあるものの、1台あたりの平均ログイン回数を見ても同様の数字です。4ページの「図書館システムの更新」の記事でも取り上げたように、学生が図書館にノートパソコンを持参する形が定着してきていることから、無線LANアクセスポイントを増設し利用環境の改善を図ったところ です。

コロナ禍を経た利用傾向の変化に着目し、その変化を踏まえながら、筑波大学附属図書館はこれからも多様な図書館サービスを提供していきます。

2. 利用統計

		中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数（日）	平日	235	234	234	246	246	—
	土・日・祝日	111	78	111	118	119	—
	合計	346	312	345	364	365	—
入館者数（人）	平日	306,458	68,569	108,738	31,045	22,525	537,335
	（学外者 内数）	12,365	1,437	1,804	1,527	6,486	23,619
	土・日・祝日	64,020	9,257	20,197	4,683	18,335	116,492
	（学外者 内数）	7,177	375	906	433	4,434	13,325
	合計	370,478	77,826	128,935	35,728	40,860	653,827
平均入館者数（人）	（学外者 内数）	19,542	1,812	2,710	1,960	10,920	36,944
	平日	1,304	293	465	126	92	—
	（学外者 内数）	53	6	8	6	26	—
	土・日・祝日	577	119	182	40	154	—
	（学外者 内数）	65	5	8	4	37	—
貸出冊数（冊）	1日当たり	1,071	249	374	98	112	—
	（学外者 内数）	56	6	8	5	30	—
	学群生	67,906	14,256	7,488	7,090	212	96,952
貸出利用者数（人）	院生	52,593	9,761	2,641	2,755	5,798	73,548
	教員	20,018	3,236	4,421	2,907	2,711	33,293
	学外者	5,836	602	663	858	745	8,704
	その他	41	5	0	0	0	46
	合計	146,394	27,860	15,213	13,610	9,466	212,543
文献複写（コピー）（件）	学群生	29,616	6,113	3,783	3,409	99	43,020
	院生	18,646	3,777	1,180	1,151	2,373	27,127
	教員	5,275	778	1,586	921	783	9,343
	学外者	1,976	222	224	357	291	3,070
	その他	12	1	0	0	0	13
相互貸借（図書）（件）	合計	55,525	10,891	6,773	5,838	3,546	82,573
	学外依頼	2,612	411	1,234	226	938	5,421
	学外提供	1,189	131	257	85	90	1,752
レファレンス件数（件）	合計	3,801	542	1,491	311	1,028	7,173
	学外借受	953	63	29	70	141	1,256
	学外貸出	1,850	313	80	119	134	2,496
資料に関するもの	合計	2,803	376	109	189	275	3,752
	学生	5,170	871	776	312	1,716	8,845
	教員	3,269	508	1,885	390	491	6,543
	その他	858	64	71	85	606	1,684
	合計	9,297	1,443	2,732	787	2,813	17,072
利用案内・指導	資料に関するもの	5,946	856	2,199	483	1,694	11,178
	利用案内・指導	3,338	587	533	304	1,119	5,881
	事実に関するもの	13	0	0	0	0	13
合計	合計	9,297	1,443	2,732	787	2,813	17,072

webコンテンツアクセス数

webサイトアクセス件数	件
学内	333,846
学外	1,042,391
合計	1,376,237

つくばリポジトリアクセス件数	件
メタデータアクセス数	1,888,925
本文ダウンロード数	2,373,525

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数	件
Cambridge Journals Online	12,334
JSTOR	42,192
Nature	183,252
Oxford Journals	65,607
ProQuest Central	30,202
Science	35,172
ScienceDirect	779,942
SpringerLink	231,986
Wiley Online Library	258,787

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Business Source Complete	3,547
CAS SciFinder ^{a)}	84,550
InCites-Journal and Highly Cited Data	13,156
Lexis	6,632
ProQuest Central	14,190
Web of Science	202,903
医中誌Web	56,959

主要な電子ブックアクセス件数	件
Cambridge University Press	1,463
KinoDen*	1,605
ProQuest Ebook Central	3,484
Maruzen eBook Library*	6,588
EBSCO eBooks	815
Springer eBooks	15,931
Wiley Online Library	1,529

*タイトルアクセス数（その他はフルテキストアクセス数）

3. 基盤統計

施設環境

(2023年度末現在)

	中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合 計
建物面積（㎡）	19,330	3,518	2,793	2,848	1,552	30,041
座席数（席）	1,129	368	341	255	132	2,225
利用者用PC台数（台）	122	47	54	33	16	272

図 書

(冊)

	中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合 計
(和洋区分) 和書	5,860	1,380	866	1,347	644	10,097
洋書	1,023	224	76	212	279	1,814
合計	6,883	1,604	942	1,559	923	11,911
年度受入冊数 (受入区分) 購入	3,977	733	665	669	492	6,536
寄贈	2,626	805	248	834	372	4,885
製本	267	63	29	56	55	470
その他	13	3	0	0	4	20
合計	6,883	1,604	942	1,559	923	11,911
(和洋区分) 和書	1,149,904	206,627	98,134	190,762	57,739	1,703,166
洋書	795,210	68,819	80,927	75,908	27,426	1,048,290
合計	1,945,114	275,446	179,061	266,670	85,165	2,751,456

雑誌（冊子）

内訳	年度受入タイトル数			所蔵 タイトル数
	購入	寄贈	計	
和雑誌	648	3,303	3,951	17,925
洋雑誌	198	245	443	13,009
合計	846	3,548	4,394	30,934

つくばリポジトリ 累積登録件数

(2023 年度末現在)

内訳	件 数
学術雑誌掲載論文	14,036
学位論文全文	6,715
学位論文内容・審査の要旨	12,164
修士論文	611
紀要論文	23,338
研究報告書	5,028
会議発表資料	492
講義資料	212
研究業績目録	23
貴重書コレクション	408
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	65
その他（図書）	1,165
合計	64,352

電子ジャーナル 契約タイトル数

(有料契約誌のみ)

内訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	408
JSTOR	960
Nature	28
Oxford Journals	242
ProQuest Central	25,000
Science	1
ScienceDirect	2,295
SpringerLink	2,238
Wiley Online Library	1,332
その他	4,905
合計	37,409

提供データベース・検索ツール

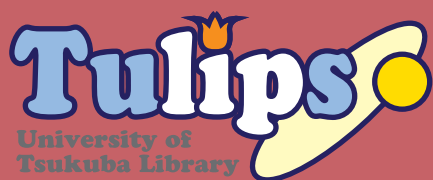
● 主要契約データベース

データベース名
Business Source Complete
CAS SciFinder [®]
CINAHL
D1-Law.com
InCites-Journal and Highly Cited Data
Lexis
ProQuest Central
Web of Science
Westlaw Japan
朝日新聞クロスサーチ
医中誌Web
雑誌記事索引集成データベース
ジャパンナレッジLib
日経テレコン21
毎索
ヨミダス歴史館

電子ブック 契約タイトル 累積数

(2023年度末現在)

内訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	-	1,688
Kinoden	221	-
ProQuest Ebook Central	-	1,007
Maruzen eBook Library	2,957	542
EBSCO eBooks	492	1,076
Springer	-	29,572
Wiley Online Library	-	1,153
その他	25	3,850
合計	3,695	38,888



筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052

voice@tulips.tsukuba.ac.jp

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

23

令和6(2024)年6月28日発行